放射能汚染を考える

有機農家と市民が座談会

富士市学校給食を考える会は19日、座談会「有機農家と語る放射能汚染～放射能との今後の付き合い方を考える～」を吉原2丁目の市民活動センター・コミュニティfで開いた。

第220回例会を安全安心の食について考える座談会とし、富士宮市学校給食を考える会と共催。一般市民にも参加を呼び掛け、約20人が集まった。

有機農家は富士宮市内野の棟居泉さんを迎えた。昨年3月の福島第一原発事故の直後から、自主的に専門機関で自身の畑で採れた農作物や土壌の放射線測定検査をして、安全性を確認するなどの取り組みを話してもらい、意見交換した。

その中で棟居さんは、「生産者は農作物が放射能に汚染されていないかおびえ、消費者は手にする農作物が本当に安全なのか疑心暗鬼になっている。その溝をどうにかして埋めたい」との思いを伝えた。

自身の取り組みでは、「費用を出してもいいから検査してほしい」という顧客の声をヒントに、昨年12月から「検査会員制」を設け、会員から集めた資金で定期的に検査するという、消費者と生産者が一体となって食の安全を求める新たな仕組みを紹介し、出席者たちの関心を集めていた。

農産物の種類や生育過程の違いで、放射線の影響を受ける度合いが異なるなどの説明もして、「消費者が放射能汚染のメカニズムを正しく知っておくことも大切」と呼び掛けた。

テーブルを囲んで棟居さんの話に耳を傾ける

120221_富士ニュース